

気候変動への対応

事業	具体的な事業内容
燃費効率向上	燃費効率に優れたエコシップの販売/保有・運航のほか、省燃費航空機・エンジンの開発・導入を支援
微生物を活用したガス発酵技術開発	CO <sub>2</sub> 、CO <sub>2</sub> を含むガスを微生物により発酵させ、燃料や化学品を製造する技術を開発しているLanzaTechへの出資・参画を通じ、温室効果ガス削減およびサーキュラーエコノミー構築へ向けた事業を世界各地で展開。2018年5月から中国河北省では、LanzaTechの技術を活用した、製鉄所由来の排ガスを原料とした燃料用エタノールプラントが商業生産を開始
グリーンケミカル	天然油脂を原料とする油脂化学品領域において、グリーンケミカル事業を推進
天日塩製造	Shark Bay Salt Pty.を通じて所有・操業するオーストラリアのシャークベイおよびオンスロー塩田では、隣接する海から2～3年程度をかけて太陽光や風といった自然の力で天日塩を収穫するCO <sub>2</sub> フリー塩田への取り組みを推進
排出権	ブラジル北部のJirau水力発電所電力供給事業への出資・参画を通じ、年間600万CO <sub>2</sub> トンの排出権を取得 甲南ユーティリティ(兵庫県神戸市)の木質バイオマスコジェネ設備導入によるJ-クレジットプロジェクト登録を完了。2020年から8年間、3.6万t-CO <sub>2</sub> /年のJ-クレジットを取得予定。また、省エネルギー機器の導入等により調達したJ-クレジットの創出・販売を推進 JCM(二国間クレジット制度)を活用し、カンボジアREDD+案件(途上国における森林減少・劣化防止活動により排出削減された温室効果ガスに対して排出権等の経済的インセンティブを与える仕組み)を推進 森林の立木価値と排出権価値とを融合、持続可能な森林資産の価値最大化を目指すNew Forests Pty.への出資・参画を通じ、地球温暖化防止に貢献
太陽光ファンド	当社子会社の三井物産オルタナティブインベストメンツでは、太陽光ファンドを組成・販売することで太陽光発電の普及に貢献

「三井物産の森」で年間56万トンのCO<sub>2</sub>を蓄積・吸収

「三井物産の森」が蓄積・吸収するCO<sub>2</sub>は、年間約56万トン\*と推計され、持続可能な森林経営を通じて気候変動リスクの緩和に貢献しています。

\*: "IPCC Guideline for National Greenhouse Gas Inventories" Tier1を試算根拠としています。



Our Stories : 環境と調和する社会をつくる

P.27 低炭素社会の構築を目指し、新技術で未来を拓く

SDGs: 3.9、7.1、7.2、7.b、9.4、11.6、13.2



水資源問題への対応



世界的に水資源問題への関心が高まる中、三井物産では、水資源の保全および持続可能な利用の推進に向け、水事業に取り組んでいます。一方、新規事業投資案件のうち、環境への影響が大きい案件は、専門家による調査を実施しています。特に水ストレス地域においては、WRI(世界資源研究所)のAqueduct(水リスクマップ)を活用し、新規事業のみならず既存事業も対象として水ストレスのリスク分析・モニタリングを実施、水ストレス軽減を図っています。

タイで上水供給事業を展開することで100万人以上に安心で安全な水を供給

活動

SDGs: 6.1

当社は、タイの建設大手CH Karnchangグループと共に事業会社TTW PCL(以下、TTW)へ出資・参画しており、バンコク郊外北部・西部地区に上水供給を行う事業を展開しています。TTWの浄水場は、タチン川、およびチャオプラヤ川から取水し一日当たり約100万立方メートルの上水を生産することができ、100万人以上に「安心で安全な水」を供給しています。



TTW浄水場全景

社有林「三井物産の森」を通じて水資源の確保、水害防止に貢献

SDGs: 15.1

社有林「三井物産の森」(日本全国74か所、約44,000ヘクタール)のうち、約13,000ヘクタールは水資源の確保や水害防止に役立つ「水源涵養保安林」として公的に指定されています。腐葉土が雨水を貯えることで洪水の発生を抑制するほか、水資源貯蓄、水質浄化、水量調整等の役割を担っています。



水源涵養保安林の田代山林